

「十六羅漢岩」

山形県遊佐町

吹浦駅の西北約1kmの海岸に、名勝十六羅漢岩が日本海に突き出ている。かつて、西鳥海火山中腹の噴火口から流れ出した溶岩流の一つが、吹浦山となりその末端は日本海に洗われている。一帯の岩石は吹浦溶岩と呼ばれる複輝(ふくき)石安山岩で、十六羅漢はこの溶岩に刻まれたものである。

また、吹浦一帯は日本海の孤島飛島を望む風光明媚な漁村で、まさに一幅の名画を見る感があるが、ひとたび天候急変するや怒涛逆巻き一瞬にして地獄絵と化し、昔から多くの漁師たちが荒波に命を失った。

この地に於いて、陸地を目前にして溺死する者たちに胸を痛めた海禅寺二十一代住職の寛海和尚は、諸霊供養と海上の安全を祈り、衆生を救わんと、元治元年(1864)に羅漢の造仏を発願する。寛海は、自ら近村は勿論、遠く酒田まで托鉢して勧化に努める一方、地元の升川の石工たちを指揮督励して刻苦すること5年、明治元年(1868)ようやく二十二体の磨崖物仏を完工させた。像は自然の岩石の姿に合わせて刻むことを心したものであるという。



十六羅漢

【参考資料】遊佐町文化財保護審議会文章
「改訂 遊佐の歴史」(昭和49年)



十六羅漢全景

寛海和尚は生涯恵まれず、雪の降る夜海禅寺を抜け出し、白雪に足跡を残して海に身を投げ、それ以来姿を現さなかった。明治4年、71歳であったそうだ。

また、十六羅漢岩の眺望台に、斎藤勇の「母川回帰」と佐藤漾人の「鳥海の鳥曇」、岩の東方100mの道傍には、芭蕉が酒田で詠んだ「あつみ山や 吹浦かけて 夕涼み」の句碑がある。

みどころ



- 出羽二見：十六羅漢岩の南側磯場に突き出た一対の岩で、その姿から夫婦岩とも呼ばれている。岩にはお互いを結ぶ注連縄が掛けられており、二つの岩の間を夕陽が沈む頃は多くのカメラマンが訪れる。
- サンセット十六羅漢：十六羅漢に隣接して建設された施設で、特産品直売所がある他、食事や休憩ができる。 ☎0234-77-3330